

水俣支所の発足（創設準備経過報告）

森 敏 雄*

水俣湾公害防止事業については、本誌第6号に「水俣湾汚泥浚渫監視事業と本協会の活動」と題して発表されているので、ここでは我々が水俣に到着した日から分析態勢完了までの経過について報告する。

昭和52年1月20日、西村常務、白石部長と私は列車で、黒田、高木、内田、遠藤の諸君は自動車で、それぞれ水俣に到着した。直ちに各所の挨拶廻りをし、次で、採水班、分析班全員は、4建（運輸省第4港湾建設局）と県事業所職員の方々に紹介された。その後、到着した機械、器具、薬品の解梱を開始した。2月1日からの業務開始に備え、採水班は浮標設置等の採水準備に追われ、分析班は、機器の設置や、試薬の調製に忙殺された。1週間で準備を終り、27日には本番通りのリハーサルをする予定だったが、何やかやと手間どり、全員休日返上、残業でやっと30日に準備完了し、31日にリハーサルを終り、明日からの事前調査開始にやっと間に合わせた。此の間に、1月24日より山科嬢が事務員として加わった。後日は彼女は分析もする様になるのだが。全員の奮闘努力に感謝する。そして2月1日、本日よりいよいよ調査開始。全員何となく緊張ぎみ。採水班は8時20分第1回の調査に出発する。部長以下全員で見送る。第2回採水には、県の小松所長、矢沢課長も同乗された。かくして、今後約10年間の長い調査業務の幕が切って落されたので

ある。

1月21日に、使命観「技術を生かして、水俣湾の2次汚染を防ぐ九環協」を全員で作成し、我々の使命の重さを認識し、その達成を誓い合った。

当初の測定項目は、水温、DO、pH、濁度、COD、T-Hgで、基本監視点6点を1日3回採水、分析する。2月21日からは補助監視点9点加わり、船も3隻となり、更に月に2回、Cl、PO₄、NO₃の測定が加わった。

2月18日、待望の電話が開通した。それまでは、電話がかかるときに、県の事務所まで走ったのだが、今日からは待たず事なく通話が出来ようになった。3月に入ると分析技術に自信もついたが、今回の契約は3月末までであり、本工事の開始が待たれるのだが、未だ延びそうで心配となってきた。

この辺で宿舎について述べる。1月に入って急に2月1日より事前調査開始という事で、宿舎建設も間に合わず、4月11日まで約2ヶ月間、旅館「桃太郎」にお世話になった。宿舎建設は、1月26日に水俣八幡宮で起工式を行い、突貫工事に入ったが、プレハブとは云え、6室をもつ寮と、2間のある管理棟の建築なので、完工は4月10日となった。場所は梅戸町で小さな漁港の横の埋立地にあり、海まで1、2分で泳ぎに行くことができ、また小魚釣には絶好の所である。次で6月3

* 業務部アセス課長（前 水俣支所長）

日には、隣に採水班（パシフィック航業KK）の宿舎も完成した。3月末には第1期の契約期間も終わった。第2期の契約は、4月10日

から7月10日までで、空白期間は自主監視を続けた。

今回はここまでの報告にとどめます。

（文献紹介） 日本各地の頭髪に含まれる25種の金属元素量と測定方法について

寺岡久之，小林純

（日本衛生学雑誌：32(4)574（1977））

日本各地の理髪店と美容院から0.5～5.0 Kgの頭髪（数百～数千人分）を採集し，シャンプーと水で洗滌し，均一な混合試料をつくった。その1部を450℃の電気炉で灰化，灰の3mg（個人の1月分の約1/2）と内部標準をふくむ炭素粉末17mgを混合し炭素電極に充填，アルゴン・酸素雰囲気中の直流アーク（300V，12A）で燃焼，中央結像法で

アーク（4mm）の中央部（1mm）のみを分光器スリットにとりフィルム撮影し，マイクロホトメーターで内標準元素のスペクトル線の強度と共に測定し，合成した標準試料から得られた検量線で定量する。

この方法で金属元素25種の含量を決定したが，男女別の差が大きな元素は次表の通りである。（ppm，dry）

	Ca	Zn	Mg	Si	Al	Cu	Pb	Sr	Ba
男	1,100	170	95	77	24	17	7.8	2.9	1.5
女	2,800	260	190	28	12	31	13	8.4	4.3

女性は男性にくらべ無機成分が大で2倍以上に達する。無機成分の大部分はCaSO₄で，従ってCaは男性の2倍以上である。その他Zn，アルカリ土類元素，Cu，Pb，Sn，Ni，Cd，V，Coが男性より多い。男性にはSiとAl

が女性より多く含まれる。

また，汚染環境との関係を検討したところ，製鉄所附近の住民にはS，Fe，Alが，亜鉛製錬所附近の住民にはCdとPbが多く，逆にPが少ないことがわかった。